

平成 1 7 年度事業報告書



学校法人鳥取環境大学

平成 1 8 年 5 月

1 法人の概要

(1) 設置する学校・学部・学科等

設置学校名	学部・研究科・課程名	学科・専攻・附属施設等名
鳥取環境大学	環境情報学研究科	環境情報学専攻
	環境情報学部	環境政策学科 環境デザイン学科 情報システム学科

(2) 当該学校大学院・学部学科等の入学定員、学生数の状況(人)

大学院	領域名	定員	在籍者(平成18年3月1日現在)		
			1年生	2年生	合計
環境情報学研究科	社会環境学領域		8		8
	環境デザイン領域		4		4
	情報システム領域		6		6
計		20	18		18

学部名	学科名	定員	在籍者(平成18年3月1日現在)				
			1年生	2年生	3年生	4年生	合計
環境情報学部	環境政策学科	166	171	193	181	210	755
	環境デザイン学科	79	57	58	72	91	278
	情報システム学科	79	48	53	72	88	261
計		324	276	304	325	389	1,294

定員には編入学定員(各学科2人)を含まない。

4年生の在籍者数には過年度生を含む(政策16人、デザイン10人、システム11人)

(3) 役員・教職員の概要(平成18年3月1日現在)(人)

ア 役員

理事長	副理事長	常務理事	理事	理事計	監事	顧問
1	1	1	9	12	2	1

イ 教員

学長	副学長	研究科長
1	2	1

環境情報学部	教授	助教授	講師	助手	計
環境政策学科	6 副学長含む	8	2	0	16
環境デザイン学科	9	2	1	1	13
情報システム学科	10 副学長含む	4	5	2	21
計	25	14	8	3	50

情報システム学科には英語担当教員5人(うち特任講師3人)を含む

環境デザイン学科には特任講師1人を含む

環境情報学研究科の兼任教員18人を含む

ウ 事務局職員

事務局長	審議役	次長	総務課	入試広報課	学務課	就職課	図書情報課	合計
1	1	1	8(3)	7	6(3)	2(3)	6(2)	32(11)

()は嘱託職員で別数

東京・大阪駐在、高校訪問担当の参与は含まず

2 事業の内容

(1) 概要

教育研究及び入学試験などの業務を実施するとともに、開かれた大学として地域交流及び施設開放事業などを実施した。

また、平成17年4月に鳥取環境大学大学院（修士課程）を開設した。

(2) 法人運営管理

ア 理事会の開催

区 分	開催時期	議 案 等
第21回	5 / 26 (木)	16年度事業報告及び収支決算、17年度予算変更、理事の選任、副学長の選任、退職手当規程の改正等
第22回	10 / 5 (水)	17年度予算変更、評議員の選任、諸規程の制定及び改正、業務運営理事会の先決事項の承認、平成18年度大学運営に係る重点課題等
第23回	12 / 21 (水)	寄附行為の変更、評議員の選任、職員の懲戒処分、給与規程の改正等
第24回	3 / 23 (木)	評議員の選任
第25回	3 / 23 (木)	18年度事業計画及び収支予算、職員の懲戒処分、理事の選任、常務理事の選任及び報酬月額の変更、副学長の選任、センター長の選任、学科長の選任、学則の一部変更、大学院学則の一部変更、業務運営理事会の先決事項の承認、諸規程の制定及び改正等

イ 評議員会の開催

区 分	開催時期	議 案 等
第18回	5 / 26 (木)	16年度事業報告及び収支決算、17年度予算変更、評議員の選任等
第19回	10 / 5 (月)	17年度予算変更、平成18年度大学運営に係る重点課題等
第20回	12 / 14 (水)	寄附行為の変更等
第21回	3 / 23 (木)	18年度事業計画及び収支予算、理事の選任等

ウ 業務運営理事会の開催

日常的な管理運営事項等を審議するために、業務運営理事会を計7回開催し、次に掲げる事項についての報告も行った。

- ・例月の業務の執行状況及び月次決算書等の報告
- ・学生の活動状況及び異動（休退学など）状況
- ・その他大学行事の実施状況など必要と認める事項

(3) 教育研究

ア 授業日程等

- 4月 3日(日) 入学式
- 4日(月)～6日(木) 前期ガイダンス(2年～4年生)
- 5日(火)～7日(金) フレッシュャーズセミナー(1年生)
- 4月 8日(金) 前期授業開始
- 8月 4日(木) 前期授業・定期試験終了
- 9月26日(月) 後期ガイダンス
- 28日(水) 後期授業開始
- 2月 2日(月) 後期授業・定期試験終了
- 3月21日(火) 卒業式

イ 科目等履修生及び聴講生の受入

一般の方に修学の間を提供し、環境問題や本学に対する理解を促進した。

- 前期：聴講生 5名 / 延べ13科目
- 後期：聴講生 6名 / 延べ11科目

ウ 高校との交流・連携

(ア) 県立高等学校との交流連携を図るため、教職員の相互派遣による授業を実施した。

- 派遣：12校 19名
- 受入：1科目 1名

(イ) 県内高等学校への環境教育の推進を目的に、鳥取情報ハイウェイ等の高速情報網を活用した『遠隔環境教育』を実施した。

- 実施：5校(鳥取東、鳥取工業、青谷、米子南、米子工業)
- 回数：18回(教員向け：4校4回、生徒向け：5校14回)

エ 教育懇談会の開催

学業成績、学生生活並びに就職活動の状況について保護者と教職員が懇談した。

- 10月23日(大阪)保護者 26名(面談19名)
- 10月30日(本学)保護者 147名(面談94名)
- 11月 5日(米子)保護者 48名(面談31名)

オ 研究

(ア) 学内研究費（個人研究費、学長配分研究費）による研究

当大学専任教員による個人又は共同研究を実施した。

個人研究費（教授・助教授・講師：70万円、助手：40万円）

学長配分研究費（6テーマ採択、総研究費2,305千円）

(イ) 学外研究費による研究

民間企業等との共同研究・受託研究及び補助金研究（鳥取県環境学術研究費、科学研究費補助金）を実施した。（共同研究、受託研究の（ ）内は17年度契約額）

共同研究（4件、850千円）

税務監査知識のパッケージ化とASPサービス形態での提供方法の開発

地域間相互接続実験プロジェクト

高速インターネット上でのデジタルアーカイブ実験

地方自治体の改革と自立に向けてゴミ処理経費の5割削減

受託研究（9件、18,857千円）

糸ハンダ・ペーストハンダ回収方法の開発

アーシングの効果に関する研究

追突防止支援システムの実車実装と評価

和紙を利用したインテリア商品の研究

市町村合併にともなう文化財の地域問題

鳥取市における就農定住対策に関する調査・研究

農業ビジネススクール設立に向けた調査・研究

インターネットのIPv6への移行の推進のための実証及び調査研究

住宅用塩ビサイディングの景観性能に関する調査研究

は県市からの受託研究

鳥取県環境学術研究費補助金（15テーマ採択、補助総額22,692千円）

鳥取県とっとり茅葺民家維持再生活用事業補助金（1件、1,650千円）

科学研究費補助金（10件、補助総額8,800千円）

経済産業省補助事業（財団法人日本情報処理開発協会より請負

：1件、2,996千円）

(ウ) 紀要の発行

紀要編集委員会で準備を進めた紀要第4号を2月に発行した。

（退任記念講演：2件、論文：10件、緊急報告1件）

(エ) 出展事業

以下の展示会へ出展し、本学の研究成果等を広くアピールした。

とっとり産業技術フェア2005 10月21日～23日 鳥取市

産学官連携フェスティバル2005 11月17日 鳥取市

エコプロダクツ2005 12月15日～17日 東京都江東区

日興商会ビジネスフェア 2月 9日～10日 兵庫県尼崎市

(4) 学生生活

ア 奨学金支給、授業料減免

成績が優秀であるにもかかわらず経済的な理由で修学が困難な学生を対象に、奨学金制度及び授業料減免制度に基づき、支給及び減免等の措置を講じた。

(ア) 奨学金

鳥取市鳥取環境大学奨学金

年間給付額：大学院50万円、

政策学科50万円、デザイン学科・システム学科60万円

採用実績：大学院（平成17年度の対象者は1学年のみ）4名

政策学科39名、デザイン学科20名、

システム学科各17名 計76名

学生支援機構奨学金 419名

地方公共団体その他の団体の奨学金 97名（内支援機構との併用者17名）

(イ) 授業料減免

学期ごとに授業料の半額を免除 (人)

	前期	後期	計
大学院		3	3
政策学科	13	24	37
デザイン学科	9	7	16
システム学科	3	6	9
計	25	40	65

イ 特待生

対象者：一般入試A方式及びセンター試験利用入試前期において成績優秀で特待生として選考され入学した者

3年生 2名（政策学科1名、システム学科1名）

2年生 5名（政策学科1名、デザイン学科1名、システム学科2名）

1年生 4名（政策学科4名）

優遇措置：鳥取市鳥取環境大学奨学金の支給と学費（授業料・実験実習費、施設費）の一部免除の併用により学費負担を全額免除

ウ 学生生活相談

・保健室における学生相談：随時実施 相談件数 延べ799件/年

・校医（メンタルヘルス、スポーツ、一般内科）による健康相談

：毎月実施 相談件数 延べ24件/年

・相談内容の上位

カウンセリング（こころの相談）：208件（26%）

呼吸器系（風邪など）：74件（9%）

(5) 大学広報と学生募集

ア 県内・近県ＪＲ駅電照看板の掲示

本学のイメージを県内・近県に浸透させるため、ＪＲ鳥取駅、米子駅、松江駅に電照看板を設置した。入試、オープンキャンパス等の日程告知にも活用した。

イ 環境論文の募集と発表会の実施（１０月９日・本学）

高校生を対象として環境問題をテーマにした環境論文の募集を実施し、全国２５都道府県の４９校から、８５０件の応募があった。

最優秀賞 １名

優秀賞 ２名

佳作 ５名

学校賞 ４校

奨励賞 １０校

環境論文の発表会と授賞式に併せ、広く環境問題に対する意識を高めてもらうことと、本学の環境問題に取り組む姿勢をアピールするために、椎名 誠氏による特別講演を開催し、約３５０名が出席した。

ウ マスコミへの情報提供

今年度の本学関連のイベントや、教員の研究活動、学生の活動等について、８４件の情報を各マスコミに対して提供し、その内容が新聞やテレビなどのマスコミに２５０回（全国４回、大阪５回、中国地方２回）取り上げられた。

エ 各種パンフレットの作成

大学案内（２７，０００部・受験生向け）

就職アピールのためのパンフレット「ＥＣＯ」（合計４回＋県内版チラシ３種：計４９，０００部・受験生向け）

各学科パンフレット（合計５０，０００部）

総合案内（４，０００部・一般向け）

学報「若葉台レポート」（２回：計８，０００部・保護者等向け）

その他、女性向け・合格者向け・大学院パンフレット等を作成

オ 広報媒体による広報活動

受験雑誌、Ｗｅｂ広告、新聞広告、ＤＭ等の広報媒体を用いて、受験生に対して本学の魅力・学科の内容、研究活動などをアピールし、学生募集活動を行った。

カ オープンキャンパスの実施（６月１２日、８月６・７日、１０月２日・本学）

本学の施設見学、学科の模擬授業、大学の概要説明、受験相談などを実施した。

４日間で、受験生、受験生の保護者、高校教員、一般来場者など計６９３名（うち受験対象者３０８名）の参加者があった。

キ 高校訪問の実施（主に5月～7月）

県内外の高校に本学の内容を周知するため、延べ759校に対して訪問を行い、主に進路指導担当教員を対象に、本学の説明と本学への出願の依頼を行った。

ク 高校内説明会の実施

主に県内の高校の教員、生徒、保護者に対し、本学の内容をより深く知ってもらうために、高校25校の校内にて説明会を行った（参加者387名）。

ケ 進学相談会への参加

全国各地で行われる進学相談会に本学ブースを出展（27会場、参加者83名）し、本学に興味を持つ来場者（高校生、高校教員、保護者）に本学の魅力をアピールし、学生募集を行った。また、鳥取、倉吉、米子、東京、大阪にて、本学単独の進学相談会も実施した。

コ 本学ホームページの管理

本学のホームページを7月1日にリニューアルした。本学の内容を詳しく説明し、本学を広く一般に周知するとともに、ホームページを通じて資料請求を受け付けることにより、学生募集を行った。

サ 県内教員対象説明会の実施（7月26日）

県内高等学校の教員を招いて、本学で施設見学会、説明会を行い、本学への進路指導を薦めて頂くよう働きかけを行った（参加者22名：15校）。

シ 資料請求者への資料提供

本学の資料請求者に対し、本学の各種パンフレットなどの資料送付や各種イベント（オープンキャンパス、進学相談会など）の案内などを行った。また、希望者にはメールマガジンを用いた情報提供も行った。

ス 学生確保の為の対策検討

学生確保緊急対策会議（2回）及びそのWG（14回）を開催し、学生確保についての短期的・中長期的施策について、具体的・総合的な見地から検討を行った。

(6) 入学試験

ア 大学入学試験の実施(9月～3月)

AO入試()、一般公募制推薦入試、指定校推薦入試、一般入試A方式・B方式・C方式、センター試験利用入試(前期、後期)、社会人特別入試、私費外国人留学生入試、3年次編入学試験を実施した。(募集定員：324人、3年次編入募集定員：6人、社会人・留学生：若干名)

受験状況： (単位：人()は編入学で外数)

学科名	定員	志願者	合格者	入学者
環境政策学科	166(2)	288	255	150
環境デザイン学科	79(2)	78(1)	69(1)	37(1)
情報システム学科	79(2)	76	71	40
計	324(6)	442(1)	395(1)	227(1)

イ 大学入試センター試験の実施(1月21、22日)

大学入試センター試験の試験会場となり試験を実施した。鳥取県及び兵庫県の受験対象者の一部(312名)が受験した。

なお、本事業は、本学がセンター試験利用入試を実施するための必須事項である。

ウ 大学院入学試験の実施(7月～2月)

推薦入試、一般入試(1期・2期)を実施した(募集定員：20人)。

受験状況： (単位：人)

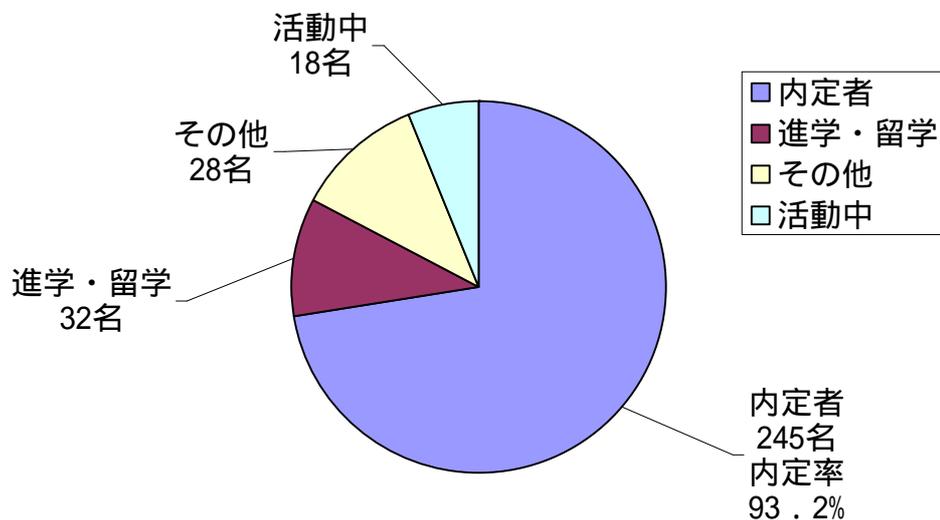
領域名	定員	志願者	合格者	入学者
社会環境学領域	10	9	9	7
環境デザイン領域	5	9	9	7
情報システム領域	5	4	4	3
計	20	22	22	17

(7) 就職・進学等進路支援

ア 就職結果(2006年3月卒業生)

(ア) 進路分布

2005年度卒業生の進路



(イ) 学科別就職内定結果

(人)

	環境政策学科			環境デザイン学科			情報システム学科			学部計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
卒業生(A)	110	69	208	49	25	74	62	8	70	221	102	323
就職者(B)	79	62	177	38	21	59	55	8	63	172	91	263
進学・留学者	13	5	13	7	2	9	5	0	5	25	7	32
その他	18	2	17	4	2	6	2	0	2	24	4	28
内定者(C)	73	57	164	35	21	56	52	7	59	160	85	245
内定率(C/B)	92.4%	91.9%	92.7%	92.1%	100.0%	94.9%	94.5%	87.5%	93.7%	93.0%	93.4%	93.2%
就職率(C/A)	66.4%	82.6%	78.8%	71.4%	84.0%	75.7%	83.9%	87.5%	84.3%	72.4%	83.3%	75.9%

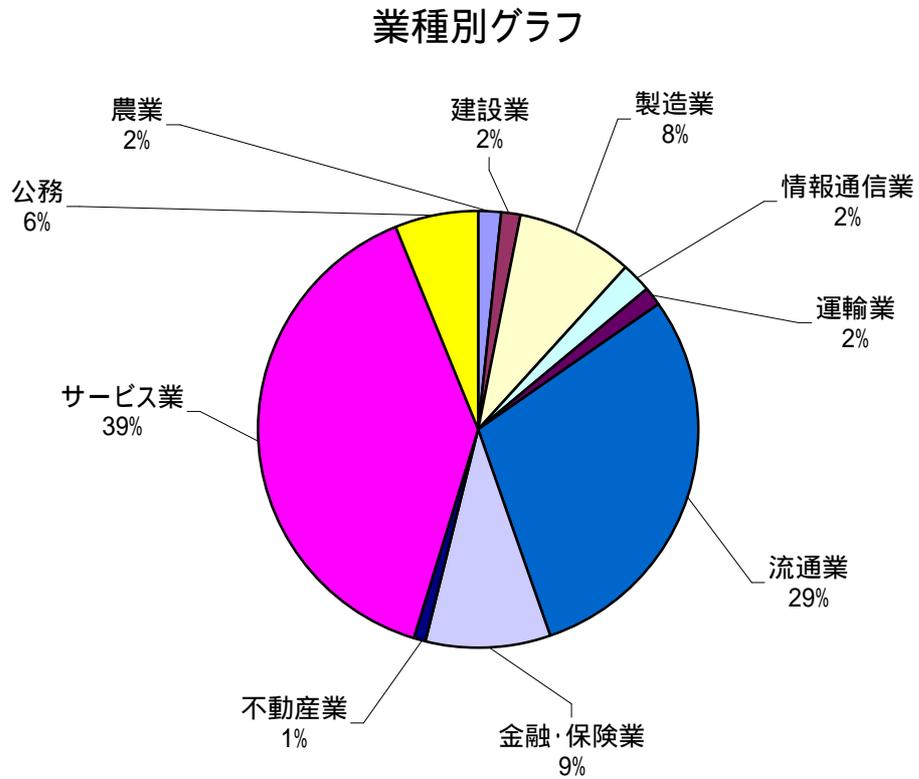
) アルバイト、家事、公務員就職浪人、資格取得など

(ウ) 主な内定先

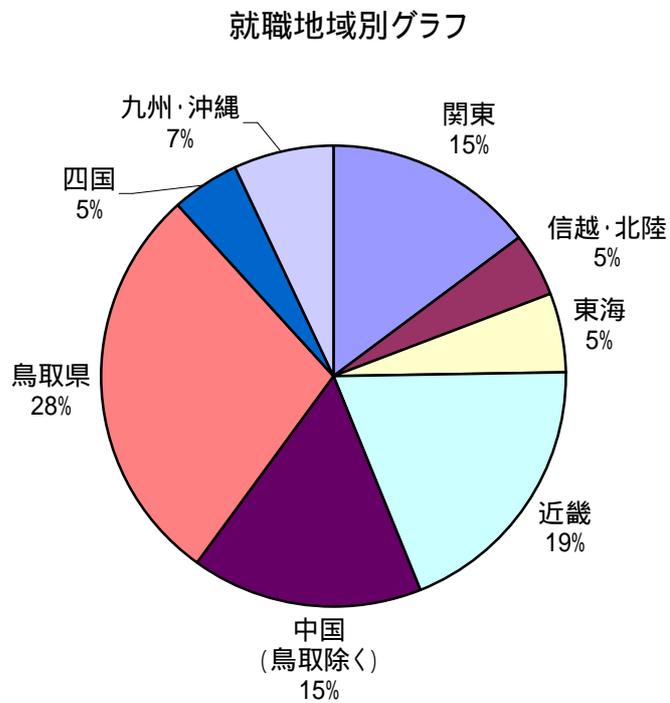
業 種	企 業 名
農 業	竹内園芸、野田牧場、吉浦牧場
建 設 業	アルテスプレモ、ウエスト、応緑、鴻池組、ザイテック、進和建设工業、積水ハウス、 創建築工業、中道建築、大和ハウス工業、松田組、美保テクノス、八幡建設、 山本左官工業、リフォームワン、ワウハウス
製 造 業	アイエム電子、伊賀の里モクモク手づくりファーム、新井産業、オムロン倉吉、兼工業、 木下製作所、サンライズ工業、聖和精機、気高電機、昭和風力機械、真生印刷、 ダイヤモンド電機、タック化成、ドトールコーヒー、鳥取三洋電機、日段日本特殊塗料、 富士発條、正光、マツエディーゼル、丸京製菓、マルチ、山崎製パン、山越、 ヤマネ工芸
情 報 通 信 業	アクシス、NTT データネット、京セラコミュニケーションシステム、コベルコシステム、 山陰ビデオシステム、信陽ビジネスサービス、情報企画、新日本海新聞社、ゼンリン、 ソフィア、D&I 情報システム、ニッセイ情報テクノロジー、日本海テレビジョン放送、 日本トータルゼータ、ハイエレコン、ハーストリー、フューチャーインフィニティ、 ベニックスソリューション、リコーソフトウェア、ユーエックス・システムズ
運 輸 業	日本通運、ヤマト運輸鳥取県営業所
卸 売・小 売 業	アウアウ、インブックス、ウェルネス湖北、ウシオ、大塚家具、因幡電機産業、 エフコープ生活共同組合、大阪いずみ市民生活共同組合、大阪魚市場、金城産業、クレージュ、 ゴダイ、コノミヤ、菜果貿販、ザグザグ、寒川商事山陰スバル、三菱ふそうトラック・バス、 サンショウ、さんれいフーズ、清水、ジャックル浦島屋、スズキ自販鳥取、スーパーサンシ、 セブン イレブン・ジャパン、ダイキ、大黒天物産、ダイドードリンコ、ダイワボウ情報システム、 高鍋食品、タカミヤ、東京靴、ダブルダッチ、鳥取トヨタ自動車、トヨタカローラ愛媛、 長野日産自動車、日興商会、ネットトヨタ南国、ハマサキ、播磨物産、東中国スズキ自動車、 東近畿クボタ、ヒラキ、ピューカンパニー、ファミリーマート、ブルーグラス、北陽ホンダ、 松坂木材、松下設備システム、マルイ、丸合、みどり商事、ミドリ電化、 山口スバル、ランドサイエンス、レッドバロン
金 融・保 険 業	アイフル、アスカフューチャーズ、山陰合同銀行、山陰信販、大山日ノ丸証券、 全国共済農業協同組合連合会鳥取県本部、但馬信用金庫、鳥取銀行、 鳥取県信用農業協同組合連合会、鳥取信用金庫、 ニッセイ同和損害保険（派遣）、西日本信販、南日本銀行
不 動 産 業	アーネストワン、エスカーサ、近藤産業
飲食店・宿泊業	和泉屋、関門海、グルメ軒屋、休暇村協会（、ジョイフル、鳥取県農協共済福祉事業団、 ピアーサーティーワタミ
医 療・福 祉	芦北町社会福祉協議会、あすなる会、井手野歯科医院、敬仁会、広島県環境保健協会、 平成会グループ
教育、学習支援業	鳥取県東部自動車学校、ノバ、ソラ沖縄専門学校
複合サービス業	くにびき農業協同組合、甲賀郡農業協同組合、全国農業協同組合連合会鳥取県本部、 鳥取いなば農業協同組合、鳥取西部農業協同組合、鳥取中央農業協同組合、 日本郵政公社、やすぎ農業協同組合、山口宇部農業協同組合
サ ー ビ ス 業	アイ・ヒューマンネット、アタックコーポレーション、かみなが農楽舎、コミー、 ザ・フォウルピ、サニックス、サファイデ、山広、三栄、サンクリーン、三光、 三菱電熱工業、信栄商事、ジャパンスポーツ、スカイ企画、セコム山陰、セツ、総合警備保障、 大和工商リース、ディップ、デ・マッセ、ツーウェイシステム、とっとり葬祭会館、 土木管理総合試験所、日本スピードシェア、ぱど、ビジネスコンサルタント、 ふるさと鳥取県定住機構、B E X、丸三、楽天
設計事務所	池下設計、空間文化開発機構、桑本賢一設計事務所、ダイコーテクノ、ライフ建築設計室
公 務	鳥取県、鳥取県警察、鳥取市、兵庫県警察本部、防衛庁、松江市消防本部

進学先（大学院）：奈良先端科学技術大学院大学、滋賀県立大学、鳥取環境大学、立教大学

(エ) 就職先業種別グラフ



(オ) 就職課地域別グラフ



(カ) 鳥取県内出身者の就職先所在地

項目	環境政策	環境デザイン	情報システム	合計	比率	昨年度比率
鳥取県内出身者が県内企業に就職	32	16	21	69	57.5%	65.1%
鳥取県内出身者が県外企業に就職	19	11	21	51	42.5%	34.9%
内定者数小計	51	27	42	120	100%	100%
未内定者数	6	1	1	8		
小計	57	28	43	128		
鳥取県内出身者の就職内定率	89.5%	96.4%	97.7%	93.8%		95.0%
鳥取県外出身者が県内企業に就職	5	5	5	15	12.0%	9.7%
鳥取県外出身者が県外企業に就職	74	24	12	110	88.0%	90.3%
内定者数小計	79	29	17	125	100%	100%
未内定者数	5	2	3	10		
小計	84	31	20	135		
鳥取県外出身者の就職内定率	94.0%	93.5%	85.0%	92.6%		92.4%

注1) 鳥取県内出身者とは高校の所在地による

注2) 就職先は本社(支社で採用の場合は支社)所在地による

イ 就職(進学)支援行事

3年生進路支援スケジュール

年月日	曜日	対象	行事	内容
2005年				
4月4日	月	3年生	キャリアデザイン講座	3年生のキャリアデザイン・自己発見
4月14日	木	3年生	R-CAP事前説明会	R-CAPを利用した自己発見
5月12日	木	3年生	R-CAP試験	R-CAP試験(有料)
5月26日	木	3年生	就職実践講座	自己分析 自己PR
6月2日	木	3年生	インターンシップ説明会	インターンシップの意義
6月9日	木	3年生	就職実践講座	自己PR エントリーシートの書き方
6月16日	木	3年生	R-CAP事後説明会	R-CAPを利用した自己発見
7月14日	木	3年生	就職ガイダンス	企業が採用したい人
7月28日	火	3年生	インターンシップ事前研修	マナー研修 諸手続きについて
8月~9月		3年生	インターンシップ派遣	企業への派遣
9月26日	月	3年生	就職ガイダンス	就職活動の流れ 本年度の動向
9月27日	火	3年生	就職ナビの使い方	ナビ登録の方法
10月6日	木	3年生	就職ガイダンス	就職ナビの使い方 企業の選び方
10月13日	木	3年生	筆記試験対策模試	現在の学力を認識し、その対策を講じる
10月下旬		3年生	インターンシップ報告会	インターンシップの結果報告会
10月~11月		3年生	個人面談	
10月20日	木	3年生	就職ガイダンス	新聞の読み方について
10月27日	木	3年生	就職ガイダンス	スーツの着こなし方
11月10日	木	3年生	就職実践講座	面接対策
11月17日	木	3年生	筆記試験対策模試講評	現在の学力を認識し、その対策を講じる
11月24日	木	3年生	業界研究会	各業界の業務内容等の説明
12月1日	木	3年生	就職ガイダンス	履歴書・エントリーシートの書き方
12月8日	木	3年生	大学院ガイダンス・業界研究会	大学院説明会
12月15日	木	3年生	就職活動報告会	就職活動を振り返って

2006年				
1月12日	木	3年生	就職ガイダンス	学内手続き 本登録票の書き方
1月14日	土	3年生	進路相談会〔2年生参加可能〕	卒業生による進路相談会
2月～4月		3年生	合同セミナーバス運行	関西・中国地区開催就職フェア参加
2月6日	月	3年生	就職ガイダンス	面接対策マナー研修
2月初-中旬		3年生	面接練習	個人面接訓練
2月28日 3月1日	火・水	3年生	学内企業研究会	県外企業を中心とした企業セミナー
3月22日	水	新4年	学内企業研究会	県内企業中心とした企業セミナー

その他の進路支援スケジュール

年月日	曜日	対象	行事	内容
2005年				
4月4日	月	2年生	キャリアデザイン講座	2年生のキャリアデザイン
4月5日	火	4年生	就職ガイダンス	就職活動の中間チェック
4月6日	水	1年生	キャリアデザイン講座	キャリアデザインに向けての大学での過ごし方
4月22日	金	4年生	企業研究会	県内企業中心とした企業セミナー
5月14日	土	保護者	進路相談会	4年生の保護者に対する進路・履修相談会
5月27日	金	4年生	企業研究会	県内企業中心とした企業セミナー
7月7日	木	4年生	就職ガイダンス	県内求人企業紹介 これからの就職活動
9月26日	月	2年生	就職ガイダンス	筆記対策講座について 就職にむけて
10月1日	土	1・2・3年	『私のしごと館』見学会	さまざまな仕事体験
10月14日	金		関西企業懇談会	関西地域の企業に対する大学紹介
11月14日	月		関東企業懇談会	関東地域の企業に対する大学紹介
11月18日	金		広島企業懇談会	中国地域地域の企業に対する大学紹介

ウ 進路支援施策

(ア) 就職ガイダンスの開催

3年生対象：15回 2年生対象：2回 新入生対象：1回

12月には4年生による就職活動報告会を開催

(イ) 学内企業研究会の開催

1回目（2月28日、3月1日）

参加企業45社 学生参加者約220人

鳥取県情報産業就職課フェアを学内で同時開催

2回目（3月22日）

参加企業40社 学生参加者約70人

〔3回目は平成18年4月20日実施 参加企業19社 学生参加者約58名〕

(ウ) 面接練習の実施（2月7日・9日・10日）

〔参加学生〕139名 〔面接官〕教員：16名 職員：17名

(エ) インターンシップの派遣

派遣時期：8月～9月の2週間

派遣先数：40団体

派遣学生数：75名

(オ) 企業懇談会の開催

関西地区〔10月14日・大阪〕: 52団体参加

関東地区〔11月14日・東京〕: 24企業参加

広島地区〔11月18日・広島〕: 13企業参加

(カ) 業界研究会の開催

流通、マスコミ、食品製造、機械製造、住宅メーカー、情報、金融・保険、
公務（鳥取県）の各業界より実務者を招聘し、業務内容等の説明会を実施

(キ) 筆記試験対策講座（早稲田セミナー主催：有料）の実施

申込者数：公務員コース 32名

一般企業コース 9名

公務員試験直前対策講座（無料）の開催：4月～5月

(ク) その他就職・進路支援策

就職支援チャーターバスの運行（11月26日、2月24日、3月2日）

借上宿舍の提供（学生負担1泊2,000円 2月～5月）

関東地区2室 関西地区2室

利用件数：関東33件 関西51件

鳥取県人会（関東、東海、関西地区）への参加による広報活動

「わたしのしごと館」（奈良県）での仕事体験（鳥取県地域労使就職支援機構主催）

（10月1日 13名参加）

大学院ガイダンスの開催（12月8日 9名参加）

本学大学院の概要、大学院の受験対策及び大学院での研究について、本学教員より説明。

鳥取大学との連携

本学と鳥取大学がそれぞれ開催する合同企業説明会に、両大学の学生が参加できるようにした。

(8) 環境関連活動

ア ISO14001 関連

- ・外部審査機関(株式会社日本環境認証機構)による更新審査(2/6~2/7)を受審し、総合評価は「合格」であった。

イ 教職員、学生及び学内協力会社による環境に配慮した活動取組

学内啓発活動

- ・校内環境負荷軽減活動(CO₂削減、コピー用紙、ゴミ分別、ゴミの再資源化、通勤・通学時自動車燃費軽減の自主的取組)
- ・CO₂削減学長プロジェクト(大学主催)
- ・事務用品・パソコン等のグリーン製品購入
- ・学内売店でのグリーン商品取扱
- ・ISO14001 カードの配布(9/26)
- ・環境教育効果としての学生への環境理解度試験の実施(9/26)
- ・学生へのISOレクチャー実施(4/4~4/6、9/26)[学生ISO委員会]
- ・学生への景観通信簿アンケート実施(4/4~4/6、9/26)[学生ISO委員会]
- ・校内一斉清掃(4/24、10/6)[学生ISO委員会]
- ・ペットボトルキャップ・紙パック・割り箸回収運動
- ・感謝祭でのリターナブル食器の使用とゴミの分別回収コーナーの設置
- ・「リファーレンいなば」への視察と報告(資源ごみ・プラスチックごみ等の処理調査)(12/8)

ウ 地域社会貢献活動(大学の取組活動も含む)

- ・鳥取市街地清掃(5/29、11/6:学生ISO委員会主催)
5/29 は他大学環境サークルと一緒に、回収したゴミ袋を持ってジャンプする「日本列島を軽くしよう」を併催
- ・学友会サークルによる地域社会貢献活動94回(まなびピアへの参加含む)
その内、環境関連の地域社会貢献活動は35回(学生ISO委員会、環境部、ヤギ部、風の会同好会、米同好会、Next Trade Tottori 同好会、中山間地域応援隊)
- ・公開講座(各学科での連載、まなびピア遠隔公開講座と環境政策学科のくらし経済・法律講座含む)(大学主催)
- ・教員による高校への遠隔教育、高校への出前講義(大学主催)
- ・自治体審議会等委員、講演活動等(教員個人活動)
- ・鳥取しゃんしゃん祭り(8/16)のゴミ清掃隊(学友会)
- ・鳥取市花火大会終了後の清掃活動(8/15~16)(学生ISO委員会)
- ・全国高校生環境論文の募集とシンポジウム(大学主催 10/9)
- ・天ぷら廃食油精製「BDF」の鳥取市100円バスへの供給(環境デザイン学科教員)
- ・鳥取市「農業ビジネススクール構想」座長(環境政策学科教員)

エ 環境関連学外活動

- ・鳥取県環境推進企業協議会への参加（総会 5/17）
- ・とっとり環境ネットワーク会議への出席（6/18 教職員・学生）
- ・とっとり環境ネットワーク会議（鳥取県民文化会館フリースペース）で本学環境への取り組みのパネル展示（6/17～6/19 学生ISO委員会、環境部）
- ・とっとり環境ネットワーク会議「湖沼の再生をテーマにした全国のこども達の報告」の司会（6/19 環境部）
- ・鳥取県版環境管理システム認定制度の審査（2～3月 政策学科教員）
- ・全国環境学習フェア鳥取大会特別講演（10/11 学長）と「環境フォーラム」司会（10/11 環境部）
- ・長崎大学環境科学部ISO学生フォーラムより学生ISO委員会が招待され、ISO活動を報告（9/27～28）
- ・「チーム・マイナス6%」（京都議定書における日本の目標・温室効果ガス排出量6%の削減を実現するための国民的プロジェクト）への加入（8月）

(9) 学外交流事業等の実施

ア 海外の大学との研究交流

<交流イベント>

『日韓産学官連携交流フォーラム』 2月17日

鳥取市と清州市(韓国)の姉妹都市提携15周年記念事業。

「産学官連携による地域経済の活性化のあり方」をテーマにパネルディスカッションを行った。パネリストとして本学学長参加。

<来学者>

浙江林学院学長 6月2日

トリア単科大学(ドイツ)関係者 3月15日

<派遣>

ロシア極東国立総合大学からの要請により、鷲野翔一教授(情報システム学科)を派遣 9月16日~20日

<17年度までの提携状況>

締結完了【5大学】 ユニテック工科大学(ニュージーランド、2000・11締結)

清州大学校理工科大学(韓国、2002・2締結)

パリベルビル建築大学(フランス、2002・8締結)

オーフス建築大学(デンマーク、2003・9締結)

ロシア極東国立総合大学(ロシア、2003・10締結)

事前協定【2大学】 吉林大学(中国、2002・8締結)

江原大学校(韓国、2002・9締結)

イ 海外英語研修事業

ウ 提携大学への短期留学

エ 大学の地域開放事業

(ア) 図書館の開放

平日は午前9時~午後6時まで、土曜日は午前9時~午後3時まで一般に開放した。

(イ) 公開講座の実施

地域に開かれた大学の実現を図るため、公開講座を実施した。

<公開講座>

『数寄とは自由なこと』(全2回、受講者計:132名)会場:本学

)「日本の住空間を旅する」第一部(6/8)

)「日本の住空間を旅する」第二部(6/22)

『どこでもコンピュータ』(全4回、受講者計:181名)

会場：県立図書館(7～9月)、本学及び米子コンベンションセンター(10月)
)「コンピュータはどうして動くの？」(7/2)
)「携帯電話の仕組み」(8/6)
)「あなたは誰？ネットワーク上の個人認証」(9/3)
)「どこでもコンピュータ～身近に使われている自動認識技術と動向～」
(10/10)

『どちらが環境にやさしいの？』(全3回、受講者計：116名)

会場：県立図書館

)「燃料電池車と電気自動車」(11/5)
)「ディーゼル車とガソリン車」(12/3)
)「汚れを取るのにティッシュ拭きと水洗い」(2/4)

(ウ) 地域イベントへの参加

地域に開かれた大学の実現を図るとともに、生涯学習への意欲の高揚と学習活動への参加を促進するため、地域で開催されるイベントに大学として参加した。

<全国生涯学習フェスティバル(まなびピア2005)>

「まなびの杜 学科紹介コーナー」

10月8日～14日、会場：本学、来場者数6,648名

「第2回全国高校生環境論文TUESカップ論文発表会」

(5)大学広報の再掲。まなびピア事業としても実施。

「図書館展示 図書館活用術～読みたい図書への近道・回り道～」

10月8日～14日、会場：本学、来場者数3,324名

「まなびピア2005“遠隔公開講座”」

公開講座10月10日実施分の再掲。まなびピア事業としても実施。

その他学生参加事業

10月8日～15日、会場：本学及び県立布勢運動公園、6団体が参加。

(1 0) 産学官連携

県産業振興機構、発明協会県支部、県産業技術センター等をメンバーとする「わかばだい連携倶楽部」ほか、連携推進のための会議・会合に本学教職員等が参加した。

中国地域産学官コラボレーション会議(5/10、6/6、8/4、8/22、3/13：広島市ほか)

産学官連携推進会議(6/25～26：京都市)

支援する会幹事会(6/26、1/30：鳥取市)、総会(7/26：鳥取市)

鳥取県産学官連携企画推進会議(7/14：鳥取市)

わかばだい連携倶楽部(7/22、11/30：鳥取市)

県生活環境部との意見交換会(8/2：本学)

八頭郡東(郡家町)商工会との懇談会(8/24：八頭町)

県商工労働部との意見交換会(10/26：本学)

県研究ニーズ内容説明会(11/7,11/8,11/24：本学)

産学官連携サミット(11/14：東京都港区)

環境ビジネス交流会(11/25：大阪市)

米子商議所との産学連携懇談会(1/27：米子)

鳥取市、鳥取商議所との産学官連携懇談会(2/9：鳥取市)

とっとりネットワークシステム(TNS)運営委員会(2/16：鳥取市)

鳥取大学・鳥取環境大学 合同ビジネス交流会(2/27：名古屋市)

ほんまちクラブ(5/10、7/7、9/9、11/11、1/11、3/3：鳥取市)

中部元気クラブ(7/17、10/18、1/16：倉吉市)

米子6：00クラブ(1/27：米子市)

(1 1) 第三者評価

平成19年度に財団法人日本高等教育評価機構のもと第三者評価を実施することを、大学運営会議並びに理事会で決定した。また、本学の教職員の中から財団法人日本高等教育評価機構の評価員(3名)が選任された。

(1 2) 情報システムの整備

ア ネットワーク機器の更新

ネットワークセキュリティの確保及びネットワーク性能の向上を目的として、学内のネットワーク機器の更新（63台の導入）を行い、9月より運用に入った。

イ ネットワーク環境の保守

学内2000余箇所に設置している情報コンセントの点検及び補修を実施した（9月、11月）。

(1 3) 情報メディアセンターの運営

ア 資料整備実績（学部経常経費、大学院経常経費、教材費、研究費及び寄贈受け分の合算）

図書 : 1,201冊

視聴覚資料 : 273点

イ 開館日数 265日

ウ 来館者（学生・教職員・学外者を含む延べ人数） 123,145人

エ 貸出冊数（学生・教職員・学外者を含む図書貸出し延べ冊数） 14,363冊

オ 視聴覚貸出数（学生・教職員・学外者を含む視聴覚資料貸出し延べ点数。館内外を含む。） 2,162点

カ パソコン等情報機器貸出し件数 771回

キ 文献複写依頼件数 189件

ク 学生用パソコンの修理受付 500回

ケ パソコンヘルプデスク受付件数 1,505件

コ 鳥取地区における他館連携

鳥取県立図書館、鳥取県商工労働部産業技術センター、鳥取大学附属図書館との相互利用の継続と鳥取市立中央図書館、放送大学鳥取学習センターとの相互利用協定の締結を行った。

サ 館内企画展示の実施 4回

・新たな食料・農業・農村基本計画（5/10～5/16）

・自然が香る鳥取の家具（9/26～10/4）

・読みたい図書への近道、回り道（10/8～10/14）

・鳥取県の名水（11/7～11/11）

3 財務の概要

(1) 経年比較

【消費収支】

(金額単位：百万円(端数四捨五入) <>内は前年対比：%)

科 目	1 3 年度	1 4 年度	1 5 年度	1 6 年度	1 7 年度				
学生生徒等納付金	659	<159.8>	1,053	<131.9>	1,389	<120.4>	1,673	< 91.2>	1,525
地方公共団体補助金	1,849	< 57.9>	1,070	< 56.9>	609	< 36.3>	221	< 12.7>	28
国庫補助金								< - >	173
その他	79		82		67		60		82
消費収入計(A)	2,587	< 78.9>	2,041	<101.2>	2,065	< 94.6>	1,954	< 92.5>	1,808
人件費	701	<110.4>	774	<103.4>	800	< 99.9>	799	< 95.7>	765
教育研究経費	665	<120.2>	799	<103.8>	829	< 99.0>	821	< 83.9>	689
管理経費	279	<106.1>	296	<109.1>	323	< 87.3>	282	<106.4>	300
その他	0		3		5		3		1
消費支出計(B)	1,645	<113.8>	1,872	<104.5>	1,957	< 97.3>	1,905	< 92.1>	1755
(A)-(B)	942	< 17.9>	169	< 63.9>	108	< 45.4>	49	<108.2>	53

【貸借対照表】

(金額単位：百万円) 建物等の有形固定資産が年々減少しているのは減価償却の為

科 目	1 3 年度	1 4 年度	1 5 年度	1 6 年度	1 7 年度
土地	6,008	6,026	6,026	6,026	6,026
建物	7,603	7,354	7,071	6,795	6,512
教育研究用機器備品	682	584	471	355	231
図書	194	239	247	259	263
現預金・引当資産	1,877	2,551	2,988	3,521	3,869
その他	164	136	128	109	84
資産計	16,528	16,890	16,931	17,065	16,985
退職給与引当金	12	22	35	47	43
未払金	119	136	64	120	45
前受金	355	293	268	248	192
その他負債	10	20	7	7	5
基本金	15,057	15,275	15,306	15,342	15,346
翌年度繰越消費収入超過額	975	1,144	1,251	1,301	1,354
～ 計(=)	16,528	16,890	16,931	17,065	16,985